

「がんは向き合うもの」

ボランティアで患者支援

山内さんは2004年、33歳で急性骨髄性白血病を発症し、07年、骨髄バンクを通じて移植を受けた。その後、再発し、16年、今度は両方の胸に

た。当時、長女は小学1年、次女は5歳だった。抗がん剤治療で一度は、完全寛解したが、その後、再発した。残された治療は骨髄移植と併行られ、治療を悩むが、友人に「生きろ」と励まされ、07年、骨髄バンクを通じて移植を受けた。その後、再発し、16年、今度は両方の胸に放射線治療を受け、現在も抗がん剤治療中である。

娘たちの成長期と重なった、13年に及ぶ二つのがんとの闘病生活にはさまざまな思いが詰まっている。「がんは闘うものじゃなく向き合うもの」との思いを深め、周りの方に助けられ

ました」と感謝する。長女は今年、成人式を迎えた。「娘が『お母さんは病氣から逃げなかつた』って」と笑顔で話

す。小さい頃から仏教になじみ、仏教系の学校を卒業した。「仏さまから頂いた命」と受け止め、今は仕事をしながらがんサロンなど患者支援ボランティア活動に生きがいを感じている。



患者会のネットワークも

「がん・バッテン・元気隊」(波多江伸子代表)は、福岡県内のがん患者会・がんサロンのネットワーク。団体間の連携を図りながら、ピアサポート講座・サロン運営・講演会などに取り組む。同会発行のガイドブック「そばにいるね」(九州がんセンター内ローソンで販売、税別600円)では、同県内のがん患者会やがんサロンを紹介。問い合わせ先は九州がんセンターがん相談支援センター(092-541-8100、平日10~16時)



がん・バッテン・元気隊
副代表

山内 千晶氏

やまうち・ちあき 福岡県筑紫野市在住。夫と2人の娘を持つ主婦。45歳。